

# アスペン中学生短期交換留学事業(派遣)参加報告



1月5日から14日までの10日間、姉妹都市アスペン市との交流事業「アスペン中学生短期交換留学事業(派遣)」が行われ、村内の中学生および後期課程生がアスペン市を訪問しました。参加した生徒たちはアスペンの地でどのようなことを学び、経験したのでしょうか。それぞれの感想についてご紹介します。

参加者：中学生・後期課程生7人、引率者4人

## アスペンで楽しかったこと・つらかったこと

占冠中学校 鈴木 楊生

私がアスペンに行って楽しかったことはスキーをしたこととホストファミリーと話せたことです。まず最初にスキーのことに話します。私はスノーマスの山を滑りました。スノーマスのスキー場はすごく広く、そしてジャンプ台やボックスなど、アクティブな感じのスキー場でした。私はスキーでわざわざキャンプとかしたことがないので初めてのことですが、体が浮く感覚や、着地がすごく楽しくて、すねが痛くなるまで楽しみました。ですがすごく風が強く、天候が最悪で、目の前が見えなくなるホワイトアウトに陥りました。そんな中スキーをするのがアメリカっぽいなと思いました。



続いてホストファミリーと何を話したかについて話します。私のホストファミリーは日本に大変興味があり、すごく日本のことについて聞いてきたり、逆にアスペンで何が楽しかったか・何がおいしかったか等いろいろ聞かれました。そして、私のホストファミリーは人望が厚く、たくさんの方がご飯を食べに来ました。私はそんな人たちと仲良くなろうと頑張ったのですが、やはり自分の英語力のなさに仲良くなれませんでした。ですが、大人の人たちは熱心に自分の話を聞いてくれて、中には日本に行ったことがある人もいて、いろいろな人が来て、たくさん話せて楽しかったです。ですが自分はお世辞を知らないで、アメリカのご飯と日本のご飯どちらがおいしいのか何度も聞かれたのですが、そのたびに「Japan」と答えていました。



最後につらかったことについて話します。つらかったことは、自分の英語力がなさすぎてホストファミリーの友達とあまり仲良くなれなかったことです。そして、アスペンは酸素が薄いので、満足に息が吸えないなど、色々つらかったこともありました。こんなふうに楽しかったこと・つらかったことについて話してみましたが、楽しさやつらさは住んできた環境によって異なるということを学びました。

## アスペンの思い出

占冠中学校 中本 帆香

はじめに、このような貴重な体験をさせていただきありがとうございます。私がアスペンで人々が優しく接してくれたり、分からないことを教えてくれたりしてくれました。そのおかげで、アスペンを精一杯楽しむことができました。今回は、私が体験したアスペンで楽しかったことを紹介していきます。まず一つ目は、お買い物です。想像しているよりお店が大きくて、でも日本のように何階建てになっていないわけ

## 「縁」

占冠中学校 杉岡 那奈

緊張、不安、興奮。さまざまな思いを胸に、私たちはアスペンへ飛び立ちました。初めての国際線は、楽しい思いとともに、目的地が近づくにつれ、緊張による暗い感情も募らせました。その緊張はなかなか消えず、アスペン空港に入ってからみんなと別れてホストファミリーの元へ行く一歩は、今でも思い出すと胸がキュッと締め付けられるような思いでした。初めてホストファミリーと夕食を食べた際は、緊張で話そうと考えていたことも忘れ、頭が真っ白になりました。そんな中、ホストファミリーが私にお土産として恐竜のパーカーをプレゼントしてくれました。そのパーカーは家族皆おそろいで持っているらしく、なんだか私を家族として迎えてくれたような気がして本当にうれし



はなく、1階で広いという感じでした。初めていく場所だったので、ホストファミリーにさまざまな物を見せてもらって自分の気に入った物や、日本では買えない物を買うことができました。二つ目は、スキーです。私は、小さい頃からアルペンスキーをしているのでスキーが有名なアスペンでスキーをすることをとても楽しみにしていました。スキー場は、日本では体験できないほど大きくて、雪質が良くてとても楽しかったです。ですが、いつも使っている板のようなものはなかったため、操作に慣れるのに時間がかかりました。



今回、アスペンにホームステイできたことは、私の一生の思い出です。7人での貴重な体験ができたことを本当にうれしく思います。改めて、私のホストファミリー、占冠とアスペンの関係者の皆さま、本当にありがとうございます。

アスペンでは、休日に家族や友達とスキーに行ったりスケートをしたりすることが当たり前で、それはとても素敵だと感じました。最後に、私はアスペンでも楽しいアスペンの日常を体験させていただきました。でも、やはり不安だったことや風邪をひいたり、予想外のことが起きると気持的に沈んでしまうこともありました。楽しいことだけではなく、少し不安なことも私の人生においてとても貴重な体験になりました。このような機会を与えてくれた本当にありがとうございます。

## アスペンで学んだこと

占冠中学校 八木 瑛音

私はこのたびアスペンに行かせてもらいました。まずはこのような貴重な体験をさせていただきありがとうございます。アスペンに行くことが決まった際には言語の違いや環境の違いなどに不安を感じていました。ですが実際に行ってみると自分の文法がおかしくても理解してくれたり、聞き取れなかったことを翻訳などで教えてくれたりなどのアスペンの方々の優しさを感じました。学校で習った英語などを使いつつ過ごすことができました。



私は環境の違いに苦戦しました。日本とは比べものにならないほどの乾燥が自分にとって一番苦戦した部分です。私は普段からこまめに水を飲む習慣がないので水をあまり携帯しなかったため喉がすぐ乾きました。そのようなことなどに悩まされたりなどはし

ホストファミリーとの思い出で、最も楽しかったのはスキーです。私のホストファミリーは土日スキーを計画してくれていて、私がアスペンに着いた翌日にスキーを楽しむことができました。アスペンのスキー場は、日本より広大で標高がとても高く、難しいコースは日本のコースよりも難しいと感じました。最初にアスペンにある四つの山のうち、バタミルクという山に行きました。難易度的には簡単な山だそうですが、やはり広大でした。次にアスペンハイランズという山に行きました。ここは、ホストファミリーのお気に入りの山らしく、お気に入り入りをシェアしてもらいました。

今回の滞在では、英語を話さなければいけませんでしたが、ホストファミリーはいつでも、優しくゆっくりと話してくれたり、翻訳を使ってくれたりしながら、私の好きなゲームの話や、日本やアスペンの話をしてくれました。私は、すぐに家族の一員として馴染むことができました。

最後に、短期交換留学事業に参加できたことは、私にとって、とても貴重な経験になりました。さまざまな準備をしてくださった方々、私を温かく受け入れてくださったアスペンの方々、本当にありがとうございました。



ましたが、それ以上に楽しい体験が多くARCC(アスペンレクリエーションセンター)でのスケートや水泳、ACES(アスペン環境研究所)での鳥の観察など日本ではできないような体験もたくさんさせてもらいました。

アスペンの中学校では日本にはない施設や日本との授業の進め方の違い、教室の数等さまざまな違いに驚かされました。日本にも取り入れてほしい制度や文化などもたくさんあり、その中でも私が一番いいと思った制度は生徒が自ら先生のいる教室に向かうことです。アメリカと日本では国の面積での差も大きく学校に使える面積も違うため実現は難しいかもしれませんがそのようなことについて学べたこととてもいい経験になったと思います。

改めてこのような経験をさせてもらったことに感謝し、今後の日常に生かしていきたいと思えます。

## 全員でつなぐアスペン交流

トナム学校 藤本 日々

アスペン交流という素晴らしい文化は、私にたくさんのことを教えてくれました。私のホストファミリーは本当にいい人たちで、こうしてアスペンから日本、日本からアスペンへの派遣が終わった後も、連絡をしてくれて、アスペン交流というのは、「迎えて、行って終わり」ではなく、その後もずっと続いていくものなのだ、と感じました。

最初にサンフランシスコ空港に足を踏み入れた時、海外にずっと憧れを持っていた私は、言葉に表すことのできない満ち足りた気持ちになりました。動きました。このような体験をさせていただけただけで、私の人生において、大きな出来事だったと思います。



## 日本とアスペンの違い

占冠中学校 渡辺 竣介

皆さんは日本と他国の違いを感じたことはありませんか？私がアスペンに行ったら日本と違うなと感じたところは四つあります。

一つ目は、言語です。私は英語が苦手な留学する前はうまくコミュニケーションを取れるのか心配でした。アスペンに行っても最初は難しく、苦戦しました。ですが、ホストファミリーと会話をたくさんすることで途中からアスペンのみんなとコミュニケーションを取るようになりました。日本に帰ってきて自分の英語に自信を持ちながら授業を受けることができました。

二つ目は、1日の過ごし方です。日本とは違い、アスペンは時間にルーズでした。それによって今後の予定が分からなかったり、時間が押していたり大変でしたが、そのハプニングも自分にとってはイベント的な存在なので楽しかったです。

三つ目は、食事です。アスペンの食べ物とは味もサイズも全く違います。アスペンの食べ物ほとんど味が濃く、大きかったです。特にピザはサイズが段違いで大きく、味も最高でした。私は



私がステイした交換留学生の子の部屋には、ベッドのすぐ横に、「日本コーナー」があって、日本に来た時に買った物や、思い出の物などが大切に保管されていました。それを見て、この交換留学というの、関わっている全ての人が、異国に行き、新たな友達と出会うことを大切にすることによって成り立っているのだな、と感じました。

これまで30年間、多くの人々が占冠村を訪れ、アスペンを訪れてきたと思います。このプログラムは、これほどまでにたくさんの人たちをつなげ、数えきれない絆を結びつけてきました。これから、そんな絆がたくさん結ばれていくと思うと、とてもうれしくなります。今年、そんな素敵なプログラムの一員になることができ、本当に誇りに思います。この交流で触れ合うことのできた皆さん、支えてくれた皆さん、もっと深く知れたみんな。全員に大きな感謝を伝えたいです。

アスペンでの9日間、毎日油の多い食べ物を食べていたのですが、体重が増えていなくてびっくりしました。

四つ目は、環境です。アスペンの学校は広く、きれいで私も通ってみたいと思うくらい素晴らしい学校でした。特にミドルスクールの校庭はすごく広く、毎日そこで遊びたかったです。環境の違いは学校だけでなく、街の道路や歩道には雪が少ないことです。アスペンは雪が多いイメージだったので歩きやすかったです。

私は、アスペンに行っている経験ができて良かったです。短期交換留学に関わっている皆さん、私たちをアスペンに行かせてくれてありがとうございます。今後もこの経験を生かしていきたいと思えます。



## アスペン派遣を経て

トナム学校 松本 直樹

私は、今回の中学生短期交換留学事業に引率の立場として参加させていただきました。派遣された生徒たちは皆、文化や言語の異なる地でありながらも、現地の方々と積極的にコミュニケーションを取り、10日間という短い間にも関わらず、派遣前後で見違えるほどの成長をしていたように思います。このように、英語を使ったコミュニケーションの経験や、日本とは異なる文化の中での生活は、生徒たちにとってこれからの人生観を変えるものであると思います。

そしてこのアスペンへの派遣は、私にとっても人生を変えるきっかけの一つとなることを確信しています。私を受け入れてくださったルークは、私と同じく数学の先生であり、彼とは日本とアスペンの教育制度の話や、数学の話をすることもありました。そのような話をするうちに、私の中で「海外で先生をやってみたい」という思いがだんだんと強くなっていきました。そして同時に、今回の派遣のような、子どもたちと世界をつなぐ交換留学事業にこれからも関わっていきたく思いました。30年前、初めての

## アスペンの温かさ

トナム学校 神部 爽椰

今回の短期交換留学事業への参加は、私にとって初めての「海外」となりました。持ち物は何を持っていけばいいのか、自分の英語は伝わるのだろうか、さまざまな不安がありました。アスペンに着いたから、必要な物を取り出すのに戸惑ってしまうこともありましたが、ホストファミリーと一緒に荷物を確認してくれたり、簡単な英語で話してくれたりして、緊張がほぐれ安心することができました。今思うと、病氣などにかからなかったのは、心の底から安心できたからだと思えます。



交換留学生として占冠村を訪れたコーリーさんが、今は占冠村の子どもたちをアスペンへ導いてくださっています。他にも、ティンバーさんをはじめとして、アスペンからの多くの方々がこの占冠村を支えてくださっています。私も彼らのように、海外で現地の子どもたちを支えながら、日本の子どもたちの素敵な経験のお手伝いをしていきたいと思えました。

今回、引率の立場として参加させていただきましたが、子どもたちに負けず、私自身も文化・世代を超えて多くの友人ができ、めざしたい新たな夢もできました。改めて、事業に携わっていたたくさんの方々に感謝を申し上げます。今後も占冠村とアスペン市の交流が末永く続いていくことを願っています。

